

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年10月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	9月の価格情報				10月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬			
		中旬	下旬						
葉菜類	キャベツ	74.19	95	93	74.19	102	・入荷量: 16,366t ・主産地: 群馬(53)、千葉(17)、岩手(10)、茨城(9)	平均価格 →	群馬産は、台風等による多雨の影響で腐敗や病害が発生し歩留まりが低下したものの、その後は肥大が早く大玉傾向となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、一部の生産者で作期を早めた方もいるため現在平年より多めの出荷となっているものの、曇天による生育遅れ及び小玉傾向となっていることから、今後は平年より少なめの出荷の見込み。
		88.91	97	96	88.91	105	・入荷量: 3,972t ・主産地: 群馬(51)、長野(22)、茨城(17)		群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	83.77	116	97	83.77	85	・入荷量: 11,056t ・主産地: 北海道(97)	→	北海道産は、台風の被害を受けたものの作柄が良く、また、被害のあった輸送網についてもトラック等の振り替え輸送で対応し、一部では復旧していることもあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		83.77	116	92	83.77	84	・入荷量: 3,800t ・主産地: 北海道(80)、兵庫(19)		北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	336	410	240.04	415	・入荷量: 5,877t ・主産地: 青森(22)、北海道(18)、秋田(16)、山形(11)	→	青森産は、台風により折損等が発生しており、下等級品の増加や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、気温の低下により病害等の発生が少なく品質は良いものの、台風による折損や腐敗が散見されたことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、生育は概ね順調で太りも良く、現在、やや前進出荷傾向となっていることから、今後は平年より多めの出荷の見込み。山形産は、多雨による収穫遅れや病害が散見されることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		487.13	541	475	467.01	627	・入荷量: 178t ・主産地: 香川(24)、徳島(16)、三重(14)、奈良(12)、大阪(11)、高知(11)		秋田産の出荷が平年より多めと見込まれるものの、青森産、北海道産及び山形産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	はくさい	81.96	98	86	56.81	111	・入荷量: 14,330t ・主産地: 長野(68)、茨城(16)	→	長野産は、多雨による傷みが見られ、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復に伴い、出荷量の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、曇雨天の影響により、小玉傾向であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		88.72	90	82	69.44	106	・入荷量: 5,945t ・主産地: 長野(95)		長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの引き続き平年を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	583.95	783	776	385.11	1080	・入荷量: 1,501t ・主産地: 群馬(38)、茨城(18)、栃木(15)、千葉(9)	→	群馬産は、台風及び曇天により生育遅れとなっていたものが出荷時期を迎えている一方で、露地もので播種の遅れにより出荷が遅れるものがあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、曇雨天により日照不足となっており、生育が緩慢であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、曇雨天により生育が緩慢なため、現在は平年より少なめの出荷となっているものの、天候が回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。
		670.86	830	806	461.74	975	・入荷量: 549t ・主産地: 岐阜(58)、北海道(10)		群馬産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの引き続き平年を上回って推移する見込み。
	レタス (結球)	158.27	166	148	158.27	405	・入荷量: 9,057t ・主産地: 茨城(54)、長野(29)	→	茨城産は、曇天による日照不足や降雨により多少の傷みがみられ、小玉傾向であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長野産は、台風等による多雨の影響で病害が散見され歩留まりが低下し、小玉傾向でもあることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		152.57	172	147	152.57	386	・入荷量: 1,561t ・主産地: 長野(45)、茨城(28)、兵庫(19)		茨城産及び長野産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
果菜類	きゅうり	221.22	277	348	289.03	381	・入荷量: 6,155t ・主産地: 埼玉(27)、群馬(24)、福島(14)、茨城(12)	→	埼玉産は、曇天による着果不良により、現在は平年より少なめの出荷となっているものの、今後は晩抑制作や越冬作の出荷時期を迎えることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、曇雨天や気温低下による肥大不良や病害の発生により、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は冬春作の出荷が増えてくることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。福島産は、曇雨天により花とび等がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、曇雨天による大きな影響はなく、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		232.80	293	352	298.96	394	・入荷量: 1,188t ・主産地: 群馬(22)、宮崎(19)、北海道(13)、大阪(12)、福島(8)		茨城産が平年並みと見込まれるものの、埼玉産、群馬産及び福島産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	トマト (大玉)	252.46	278	335	347.41	402	・入荷量: 6,354t ・主産地: 千葉(21)、茨城(14)、青森(13)、福島(11)、北海道(8)	→	千葉産は、曇雨天により着果不良、小玉傾向となっており病害も散見されることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、出荷終盤を迎え、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、概ね天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、順調な生育により、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、9月の曇天による気温低下及び日照不足により着色不良、肥大の遅れがみられることから、今後は平年並みの出荷の見込み。
		298.46	315	353	371.67	435	・入荷量: 1,171t ・主産地: 北海道(22)、熊本(21)、岐阜(18)、岡山(11)		茨城産、青森産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	なす	230.51	306	449	301.00	348	・入荷量: 3,421t ・主産地: 高知(35)、栃木(21)、群馬(15)、茨城(14)	→	高知産は、曇天により落花が発生しているものの、天候の回復により出荷量が増加してきていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、曇天により果実肥大が緩慢で着花数も少なく、現在平年よりやや少なめ出荷となっているものの、今後は出荷終盤を迎え、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、曇雨天の影響で病害が多く、下等級品が散見されるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		232.81	280	328	263.21	329	・入荷量: 883t ・主産地: 高知(26)、山梨(19)、熊本(14)		高知産、栃木産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
ピーマン	263.58	316	341	263.58	422	・入荷量: 2,301t ・主産地: 茨城(61)、岩手(20)	→	茨城産は、曇天による日照不足及び気温の低下により肥大が緩慢であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、気温の低下により肥大が緩慢となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
	296.27	335	348	296.27	411	・入荷量: 549t ・主産地: 茨城(16)、宮崎(16)、青森(13)、高知(11)、大分(10)、兵庫(9)		茨城産及び岩手産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
根菜類	だいこん	94.60	125	127	67.55	133	・入荷量: 13,851t ・主産地: 北海道(31)、青森(29)、千葉(27)	→	北海道産は、台風の影響によりほ場での母数が減少していることに加え、気温の低下により肥大が進まず小ぶりのものが多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、台風等による多雨の影響で腐敗等が発生し、歩留まりが低下しており、また肥料の流出により肥大も緩慢であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		95.37	119	123	76.48	130	・入荷量: 4,839t ・主産地: 北海道(34)、石川(33)、青森(11)、新潟(9)		北海道産及び青森産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	にんじん	123.08	313	296	123.08	260	・入荷量: 8,794t ・主産地: 北海道(91)	→	北海道産は、台風の影響によりほ場での母数が減少していることに加え、気温の低下により肥大が進まず小ぶりのものが多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
123.11		331	312	123.11	280	・入荷量: 2,384t ・主産地: 北海道(98)	北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月下旬までの見通し		
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格				
		中旬	下旬					上旬	
いも類	さといも	254.79	330	354	220.97	321	・入荷量：1,290t ・主産地：埼玉(47)、千葉(30)		埼玉産は、適度な降雨もあり生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、早生が8、9月の多雨の影響で収穫遅れとなっていたものが出荷時期を迎え、中生もこれから出荷盛期に向けて増加してくると見込まれることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 埼玉産の出荷が平年並みと見込まれ、千葉産の出荷が平年よりも多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		220.11	368	365	217.56	393			
	ばれいしょ	111.77	169	154	96.99	149	・入荷量：8,096t ・主産地：北海道(99)		
		111.77	170	156	96.99	144	・入荷量：1,525t ・主産地：北海道(80)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字および青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
 5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
 6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の10月下旬までの見通し		
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格				
		中旬	下旬					上旬	
洋菜類	ブロッコリー	463.99	536	601	378.98	741	・入荷量：2,136t ・主産地：北海道(35)、埼玉(18)、長野(15)		北海道産は、台風の影響によりほ場での母数が減少していることに加え、気温の低下により小ぶりのものが多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 埼玉産は、長雨の影響により病害が散見され、播種のできないほ場もあったことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長野産は、多雨の影響で下等級品が多くなっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産、埼玉産及び長野産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		440.35	572	590	401.04	621			
根菜類	ごぼう	258.04	344	321	229.57	303	・入荷量：894t ・主産地：青森(72)、茨城(12)		青森産は、台風により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、腐敗も見られ、細物や短物が多くなっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		169.63	240	225	158.75	240			
果菜類	かぼちゃ	142.49	212	176	123.11	186	・入荷量：3,143t ・主産地：北海道(98)		北海道産は、台風やその後の多雨により腐敗等が発生し、歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		133.59	159	135	128.48	171			

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成23～27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字および青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
 5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。

2 トピック — かぼちゃの需給動向等について —

今回は、ハロウィーンなどのイベントでも需要が増している「かぼちゃ」について紹介する。

かぼちゃは、日本や中国では、南蛮渡来の瓜という意味で「南瓜」と書くが、そのほかに唐茄子(とうなす)、南京(なんきん)、ポウブラなど、さまざまな別名がある野菜である。かぼちゃという名称は、16世紀にカンボジアに寄港したポルトガル船が、大分に漂流した際に持ち込まれたことから、「カンボジア」がなまって「かぼちゃ」になったもので、南京は日本船が寄港した中国の南京に由来し、ポウブラはポルトガル語 abobora(ウリ科の植物)に由来するといわれている。

カボチャ属は20数種類あり、原産はアメリカ大陸に各地に分布している。原産地のアメリカ大陸では、ミクスタかぼちゃやクロダネかぼちゃなどが栽培されており、アンデス産のクロダネかぼちゃは、1960年代日本に入り、台木として利用されている。なお、ズッキーニもかぼちゃ(ペボかぼちゃ)の一種である。

かぼちゃは昭和50年代まではもっぱら夏の野菜であったが、東京卸売市場の月別入荷量によれば、今ではかぼちゃと同じように、周年出荷のようになっている。北海道、鹿児島及び茨城が主産地であるが、冬から春までは、輸入品が多くなっている。(図1)

最近では水分が多く味が淡泊な日本かぼちゃよりも、粉質で甘い栄養価の高い西洋かぼちゃが主流となっている。海外から輸入されるかぼちゃは、現在国内流通の5割を占めており、主に粘質系のえびすかぼちゃだが、これらは日本から輸出国へ種子が導入されたもので、いわば日本に「逆輸入」したものである。また、国産の端境期である冬から春に主に輸入されるため、国産と競合しない状況となっている。

日本でもすっかり馴染みとなったハロウィーンは、古代ケルト人の秋の収穫感謝祭に起源があるといわれる。「Jack-o'-Lantern(ジャック・オー・ランタン)」というカボチャを顔型にくり抜いて、中にろうそくを立てた提灯が飾られるが、霊を導いたり、悪霊を追い払う焚火が元になっているといわれている。この時期には、数多くの外食産業などがかぼちゃを使った料理を提供しており、ハロウィーンがかぼちゃの消費にも一役かっている。

総務省・家計消費状況調査(二人以上の世帯)によれば、1世帯当たり年間購入量は約4.5kg、1世帯当たり年間支出金額は1,600円程度(図2)、また、東京都卸売市場(平成27年)によれば、入荷量上位県は、①北海道②鹿児島③茨城④沖縄⑤神奈川県となっている。(図1) また、農林水産省・食料品消費モニターによれば、1年間に食した行事ものの料理のランキングは、雑煮(9割)、おせち(9割)、おはぎ(8割)、かぼちゃ料理(冬至)(8割)となっており、12月の冬至によく食されていることが伺える。出荷量は、ここ3年ほどは減少していたが、去年増加に転じた。(図3)

図1 主要産地月別入荷量(東京と中央卸売市場(27年))

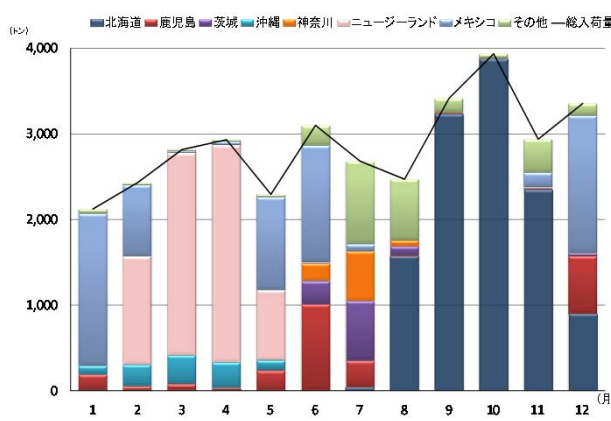


図2 購入の推移(二人世帯)

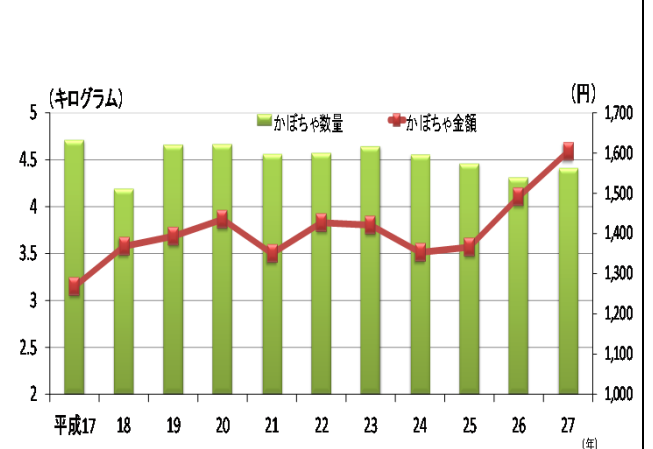
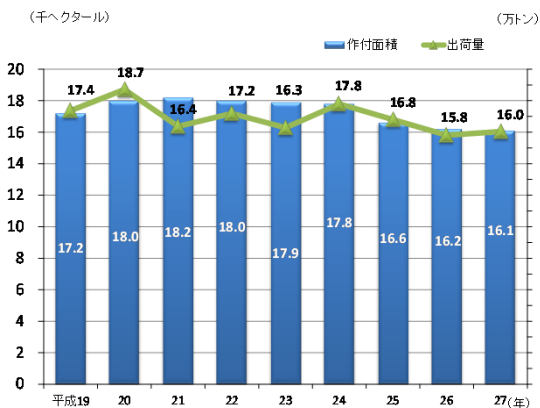


図3 作付面積と出荷量



資料：図1 ペジ探(原資料：青果物日別取扱高統計結果)、図2 総務省「家計消費状況調査」、図3 ペジ探(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メルマガジンから登録してください。
 ＊この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.html に掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。